

令和4年度(2022年度)第2回豊中市社会教育委員会議 議事概要

- 日時：令和5年（2023年）2月9日（木）17時～18時30分
- 会場：教育センター
- 出席者：秋山、有元、井川、佐藤、寺嶋、中川、濱元（50音順）
- 傍聴者：なし
- 事務局：事務局長小野、中央公民館長 弘中、読書振興課長 須藤、学び育ち支援課長 岡本、主幹 津田、副主幹 金井、社会教育課長 大澤、主幹兼郷土資料館長 清水、課長補佐 荒井、青少年交流文化館いぶき館長 久住、副主幹 島津、主査 田井

【会議次第】

1. 開会
2. 案件
 - (1) 豊中市の社会教育のあり方の検討について
 - (2) その他
3. 閉会

【資料】

次第

別紙1：社会教育委員名簿

資料1：豊中市の社会教育のあり方の検討について（案）

資料2：豊中市の社会教育のあり方の検討について【概要版】（案）

議事概要

1. 開 会

2. 案 件

(1) 豊中市の社会教育のあり方の検討について

事務局より、資料1・資料2について説明。

議 長：よく考えて作成されていると思う。一般的に生涯学習＝社会教育と捉えられがちだが、生涯学習とは学校教育も社会教育も含んで、生涯に渡る学びを作っていくものである。P10の図は、大きな生涯学習という括りの中に、学校教育・社会教育・家庭教育があるという図式になっている。

委員：P3にある第2期教育振興計画の図と他の図の表現が違うことが気になる。我々の時代は「地域」「学校」「家庭」の3つの連携が一般的であったため、P3の図は理解できるのだが、そこから大きく展開したP5のイメージ図とP10の概念図は、図の表現が異なり、整合性に欠ける。説明上はよく分かるが、もう少し理解しやすいものにしてほしい。

議長：図式化の一般性が気になるということか。

事務局（社会教育課）：P3の図は、まず前段として豊中市としての進み方を示したものの。それを受けて、今回社会教育のあり方を考えてイメージ化したのがP5の図。P10の図は中教審の行政機関の考え方を表す図を参照したので、違和感があるのかなと感じる。今回、豊中市として進めたい「学びの循環」はP5の図が主体になってくるので、このP5の図を参考に概念図を修正する。市民が見た時に楽しいイメージを、と考えて作成したこの図をP10の概念図に落とし直す。

議長：豊中市の社会教育のあり方をクローズアップしたものがP5の図。P3の第2期教育振興計画の図の中には「連携・協働」とあるが、このキーワードは今回の提案にも取り入れた方がいいと思う。P4「方針」の「(3)学校教育と連携を図り」とあるが、こうしたところも「連携・協働」にするなど、一貫性を持たせた書き方にしては。

委員：前回と比較し、まとめて頂き分かりやすく、幅が広がったと感じる。ここに書いてあるものすべて社会教育委員会議として公表するのであれば、【概要版】の表現をより分かりやすくするために修正してほしい。資料2【概要版】の「課題」の書き方が冒頭の「現状」の書きぶりと同じなので、表現方法を変えた方が良いのでは。「後継者が減少している」は「後継者の育成」、「機会が減ってきている」は「機会の創出」といったように、めざすべき方向性を記述したほうがいい。初めて見た時に分かりにくい。

事務局（社会教育課）：方向性の言い回しについて、事務局で修正する。

議長：論理的なシートにしてもらえたら。「チョボラ」などにも触れているが、やはり地域の担い手が不足しており、後継者不足が深刻。市民全体が少しずつでも「ボランティアに取り組んでみたいな」と思って機運が高まれば、活動がより活性化してくる。PTAも身近なボランティア。社会教育としてそういったバックアップができれば。私が大学で担当している「地域教育論」という授業の中で、居場所づくりについて扱ったことがある。ドイツに「多世代の家」という取り組みがあり、そこは高齢者の居住スペースであり、子ども達の遊べる場所であり、公民館のようにいろいろな人が活動しボランティアする多世代の居場所となっている。企業や行政が、労働ばかりではなく働いている時間の一部をボラン

ティアにあてるなどの取り組みを進め、皆が何かのボランティアに取り組んでいる状態になると、若い人もいろいろな人に触れ合えてつながりが生まれ、市民の福祉に繋がる。つなぎ役となる存在の人材育成が重要だが、改めてその点をどう考えていくのか。キーとなる人材育成の考え方を聞かせてほしい。

事務局（社会教育課）：相談先や出会いを求めている人はいる。地域で顔の広い人がコーディネートしてくれたらいいのだが、職員だけでやるのは限界がある。例えば、学び育ち支援課でやっている「学校支援コーディネーター養成講座」や図書館のフォローアップ研修などそれぞれの取り組みをすべて受講したら何かの資格を付与する等。次年度は、他市の先行事例等を調べて、人材育成の手法について検討したい。

議長：人材育成についての中心的な考え方は、今回のあり方に落とし込む必要がある。どこまで実現できるかより、「やっていきたい」ことを書いてほしい。社会教育課だけで担うことでもないのだから、市長部局と連携しながら考えてほしい。大阪府の社会教育委員会議に参加した際、人材育成はどの市町村でも課題だと感じた。大阪府が各市町村の人材育成プログラムを一緒に作っていく・サポートしていく等の取り組みもしているのだから利用してもらえたら。

委員：P4の基本コンセプト「豊中市における社会教育とは、人づくりであり、地域づくりの根幹を支える人材育成と位置づけ、施策を進めていく。」の下に人材育成の考え方を入れているかどうか。前回も意見として出ていた「●時間講座を受講すればOK」といった具体的なものをここに示しては。なお、【概要版】右下の「期待される役割、取組み」の背景にある図が見えない。

事務局（社会教育課）：このあり方検討が絵に描いた餅にならないよう、いただいた意見をふまえて身の丈に合った内容に落とし込んで修正していく。

議長：【概要版】は項目が多いので、それぞれを圧縮してキーワードに置き換えても良いのでは。

事務局（社会教育課）：了解しました。キャッチフレーズについてはどうか。現在、事務局で案を4つ挙げているが、この場で議論して絞り込んで頂きたい。

委員：案4の「豊かん中」はどうなのか。「輪を広げ…」以降の部分は良いと思う。

委員：案1は良いが、「暮らし」という表現が果たして適切なのか。「暮らし」という言葉には様々な意味が含まれるが、ここでは何をさしているのか。「心豊かに」ということをふまえて、案1は良いと思ったが、もう少し検討して頂きたい。また、公民分館からの意見としては、学校は池

田附属小学校の事件以降、非常に閉鎖された場所になってしまった。学校とつながることに課題がある。児童生徒の顔が全く分からず、声掛けも難しい。社会教育・地域づくりの大きな障害になっている。学校は管理職の考え方ひとつで大きく異なる。社会教育との連携については、今後、学校教育にも考えてもらいたい。

議長：今の意見は大切。結局、社会教育のあり方を発信しても、学校の先生方を含めて「一緒に子どもたちを見守っていこう」という視点を持ってもらわなければいけない。「学社融合」という考え方があるが、それぞれが別ではなく、大人も子どもも学び合うというイメージを持ってもらいたい。

委員：キャッチフレーズ、難しい。自分は案3が良いと思った。健育、すこやかネット、分館活動などは長く活動が続けているが、PTAは低学年の時に1年だけで終わり、その後活動しないケースも見られる。毎朝あいさつ運動をする中で、あいさつできる人もいればできない人もいる。どうしたらいいのかな、と考える。もっと長く継続して活動されたいのに、と思うがお仕事もある中で強制できない。

議長：活動して終わり、ではなく、人と人とのつながりがきっかけで、次につながり、循環していく。

委員：案1~4、それぞれ良いので、良いところを取って集めてはどうか。PTAについて、私たちの頃はもっと盛り上がっていた。今も地域では「お父さんらの会」があり、お母さんも入っていいよ、としながら日曜日に主に活動するなど自分たちの生活にあわせた活動をしている。ただ、私自身はこの審議会に参加するまで社会教育をやっている、という大義名分はなく活動しており、そんな概念も知らなかった。今、地域で活動している人も多くはそうだと思う。この立場になってやっと、社会的にこういう立ち位置になるのかと認識できた。社会教育は自分たちの生活を豊かにすることに繋がるのだと、一緒に活動する人に教えられたら良かったと反省している。私自身も含め、今後はそういう意識で活動していきたい。キャッチフレーズについては、案4「豊かん中」、子どもが喜ぶかな？と思った。

委員：案4は、「何だろう？」と関心は引くが、社会教育として考えると、案3の「輪ができ和になる」の方が表現も柔らかくて良いと思う。「循環る」の部分についてはどうかと思うが。

委員：最初に見た時は案1が良いと思ったが、案4の後半部分も良いと思う。組み合わせを考えてみては。分かりやすい言葉が一番だと思う。福祉の

分野でも、活動に関わって頂いている方々に対して「皆さんの活動は全体の中でどういう位置づけにいるのか」ということはお伝えしている。立ち返って再認識しなければ、活動は惰性になる。そもそもこういう目的の活動だったよね、と元のコンセプトを共有することはとても大切。コロナもあり、さらにそう感じた。

議長：キャッチフレーズはもう少し工夫し、事務局で検討してほしい。私自身は「豊かん中」は注目を集める意味で良いと思った。あとは、社会教育のコンセプトをきちんと伝えるということ。冒頭の「0. 社会教育とは」の中で「教育行政機関が取り組んでいる施策事業」とあるが、分かりにくい。社会教育とはそもそも何、という、定義的なところ、最大公約数的なところをキーワードを使い説明しても良いのでは。

(2) その他

- ・ 今月オープンする庄内文化センター（ショコラ）について、事務局より説明。

3. 閉 会

- ・ 次回、第3回社会教育委員会議は3月23日（木）に開催。

以上